

春シラス漁の漁況経過と見通し

(1) 漁況経過

春シラス漁(2~7月)は、漁期始め(2~4月)のバラツキは大きいもののH26年から比較的好調な漁模様が続いています。

今年の漁期始めは2月に17トンの漁獲(H1年以降第6位)があり、3月は荒天で出漁日が少なかったにも関わらず157トンの漁獲(H1年以降第1位)があり、4月は45トンでした(図1)。

また、シラスの種組成は、2月から4月中旬まではマシラス主体で、4月下旬からはカタクチシラスの割合が増えてきています。

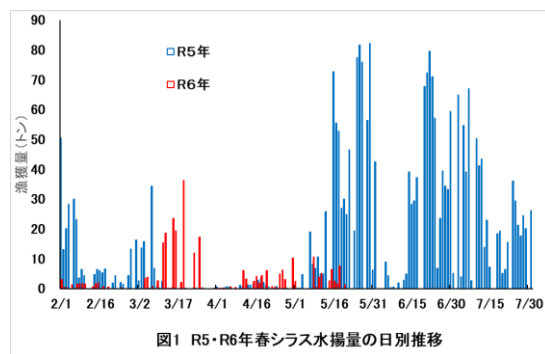


図1 R5・R6年春シラス水揚げ量の日別推移

(2) 今後の見通し

本県の6月と7月のシラス漁獲量は、海洋観測(会瀬~犬吠埼定線)10m深水温の平均値が高いほど増加する傾向にあります(図2)。

(国研)水産研究・教育機構が開発した水温予測システム(FRA-ROMS II)では、黒潮の北偏傾向は、現状とほとんど変わらず、本県沿岸は黒潮系暖水の影響が継続する見込みになっており、6、7月の10m深水温(5月20日時点)は「平年並~高め」になる予測になっています(図3)。

また、「せんかい」による沿岸部の調査では、4月中旬のカタクチイワシ卵が極めて多く確認されています。この卵は、5月下旬から6月上旬に新規群として加入すると考えられ、卵の供給が今後も継続すれば、漁獲量の増加が期待されます。

不安材料としては、100m水深帯より岸側で1ノットを超える強めの真潮(北向きの流れ)が3月下旬から継続して確認されているため、卵稚魚が他の海域へ流される可能性があります。

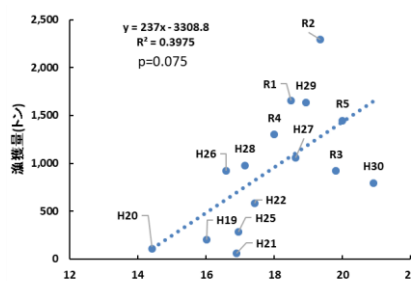


図2 6月の水温と6+7月の漁獲量の関係(水温(°C)) (H19~R5 ※H23・24除く)

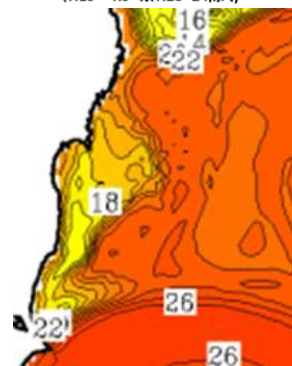


図3 7月10日の10m深水温予測例

(3) まとめ

FRA-ROMS IIによる予測では、6、7月は黒潮系暖水の影響が継続し、10m深水温は「高め~やや高め」で推移すること、昨年より多いカタクチイワシ卵の供給も確認されていることなどシラス漁にとって好条件が整っており、不安材料はあるものの6月以降漁獲量が増加することが期待され、春シラス漁(2~7月)の漁獲水準は「好漁」と予測されます。

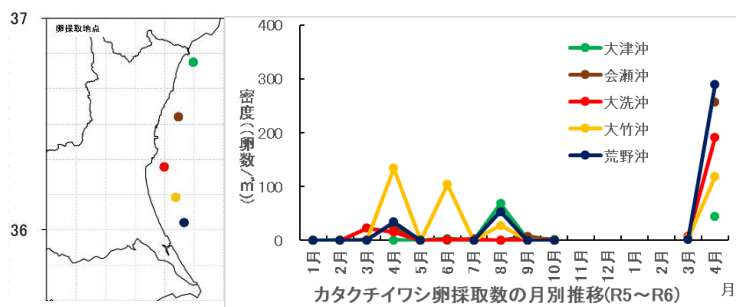


図4 「せんかい」卵調査結果

(回遊性資源部 茅根 正洋)